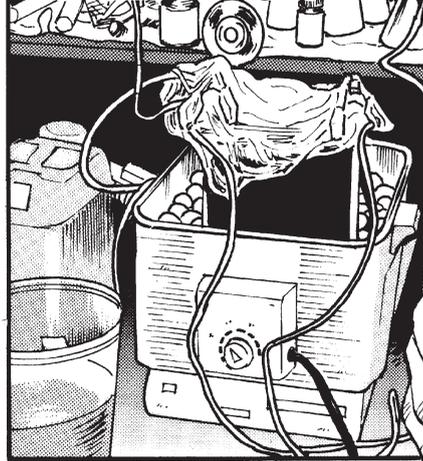


顧客ニーズに親身に対応するめっきの技術集団

特殊めっき技術
株式会社 ナウケミカル

作 桂田 健治



錆びないようにしたり
電気を流れやすくする
などの効力がある



それにより
金属光沢をつけて
付加価値をつけたり

めっきとは
表面にコーティング
すること

自社の技術をPRするために
← 金一錫めっきしたウイスキーのビン

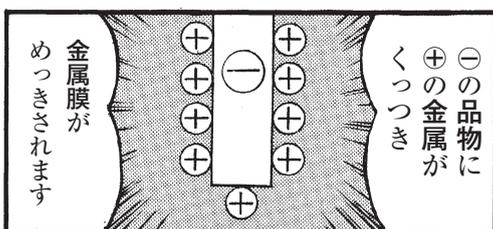
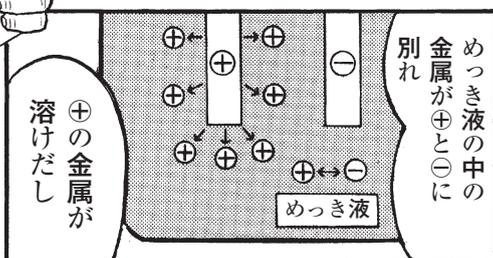
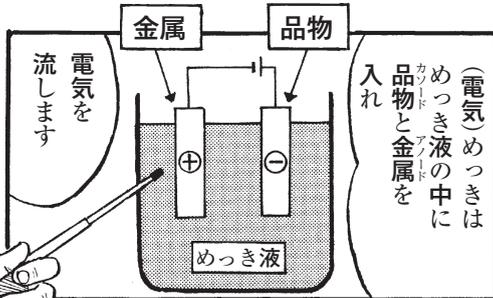


金城 純一 社長

普通のめっき業者とはちよつと異なります!

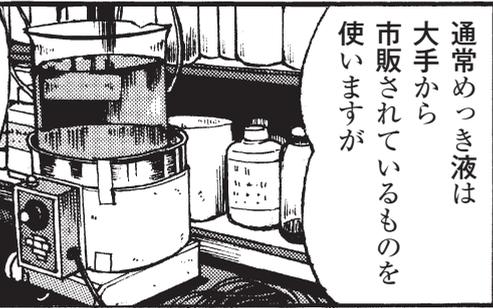
株ナウケミカルは

一般のメッキ工程



だからこそ他社にはできない金属のめっきや微妙な色合いの調整が可能なのです!

株ナウケミカルはめっき液を独自に社内で開発し加工します!



通常めっき液は大手から市販されているものを使いますが

このように株ナウケミカルは特殊メッキ技術を売る会社です



粉体へのめっきは

10ミクロン径のガラスや雲母、ニッケルなどの



その技術が光ファイバへのめっきに生かされ



アイシャドウなどの化粧品にも使われています

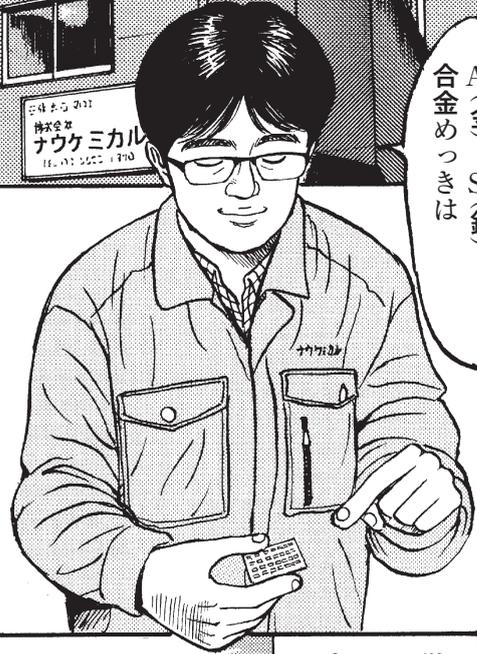
同業者からは「変なメッキ屋」と呼ばれています

(株)ナウケミカル

昭和58年創業
めつき加工業

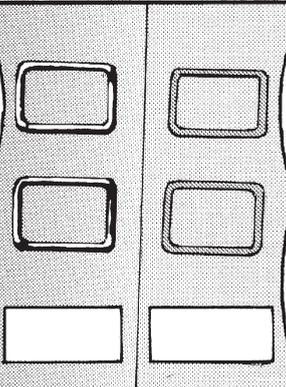


ハンダとして使われる
Au(金)Sn(錫)
合金めつきは



融点(溶ける温度)が
300度と高いため
貴重とされており

電子精密部品の
基盤などに
使われています



従来の
Au(金)Sn(錫)の
合金へのめつきは



不可能と
されてきた!

しかしー

世界中
どこにも
成功例がない!

それなら
うちがやろう!



金城 芳雄 前社長

前社長は
仕事の合間を見て
研究を重ね



失敗を繰り返し

ようやく
成功の道筋が見えたところ
研究開発費が底をつき



国や東京都の
補助金をもらい
何とか開発を続け

足かけ20年
ようやく完成！
平成14年特許出願



これまで
いろいろなものを
開発してきたが

これほど
難しい案件は
なかった

と後で
振り返る

このように
父は技術開発で
成果を上げる
一方



会社の利益には
どちらかというと
無頓着でした

私が入社した
平成12年は
ITバブルがはじめて
経営が大変なころ
でしたが



おまえは
現場に出ずに
コーヒーでも
飲んでればいい！



カチン



うわい！
そんな
ノンキな
おまえは

毎日が
ケンカ状態

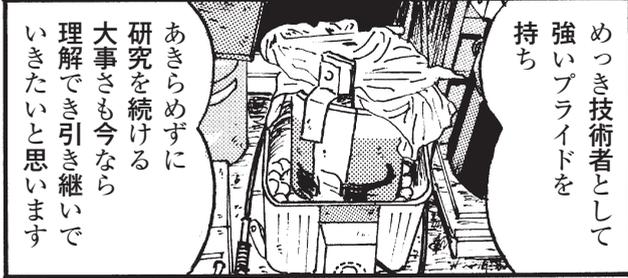
そんな前社長も
平成25年 他界



父が亡くなった後
思ったのは
「コーヒーでも飲んでろ！」
と言ったのは現場の
ことは気にせずに

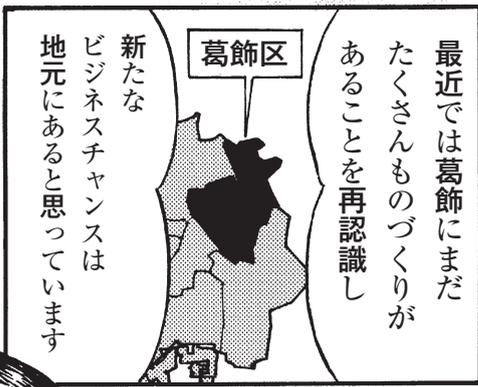


営業や企画など
「自分のできることをやれ！」と
言いたかったんだと
思います



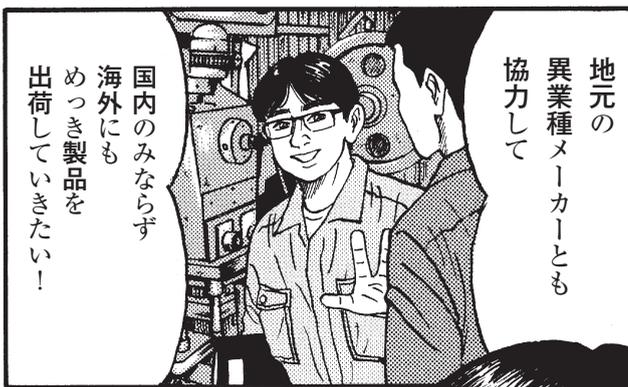
めつき技術者として
強いプライドを
持ち

あきらめずに
研究を続ける
大事さも今なら
理解でき引き継いで
いきたいと思えます



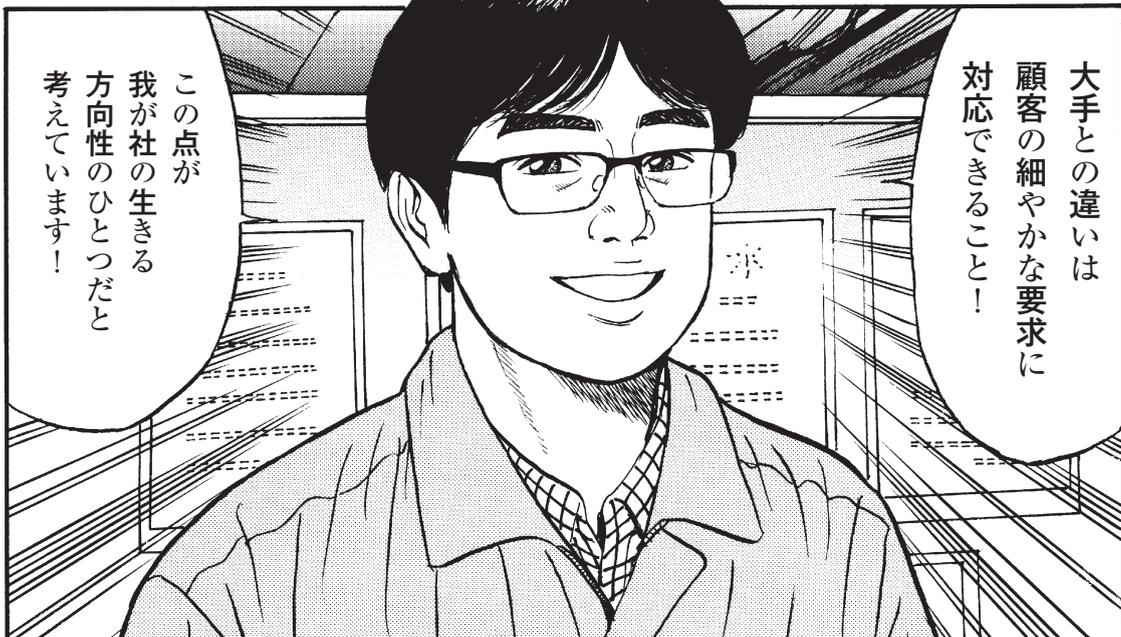
最近では葛飾にまだ
たくさんものづくりが
あることを再認識し

新たな
ビジネスチャンスは
地元にあると思っています



地元の
異業種メーカーとも
協力して

国内のみならず
海外にも
めつき製品を
出荷していきたい！



大手との違いは
顧客の細やかな要求に
対応できること！

この点が
我が社の生きる
方向性のひとつだと
考えています！

自分はめっき技術では
父には到底かなわない



でも
父のめっき技術と情熱を
脈々と引き継ぐ社員が日々
研究開発をしています！

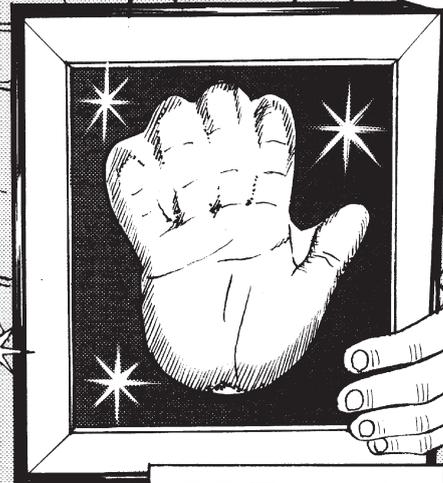


(株)ナウケミカルは
技術開発型企業という
形態をベースに

技術をより幅広く
活用する企業を
目指していきたい！



粉体めっき顔料を
塗装した怪獣の置き物



PR用に作った
めっきの手形